

■近頃、現代人の意識が大きく変わろうとしていることを感じます。今月はそれを意識して選んでみました。

冬、はじめました(暦)

冬の入荷日は未定です(地球)

作者 加藤 美紀 (愛知県)

——ユーモラスな中に新鮮な視点

正直な犬だね絶えず変化している

作者 青木雅 (埼玉県)

——動物と人との違いは何だろう。時に両者は入れ替わるかも知れない。

答えの出ない議論には

なるだけ関わりたくない

伝統ヴァーサス確信とか

作者 風船 (東京都)

——伝統も確信も動かない物とすれば不毛の議論。

君の耳が僕の声に届きますように

作者 宇井 麻千 (大阪府)

——発する前にすでに感じ取る気配。その愛。

白鳥が書くことをまだ止めるなど

作者 細村 星一郎 (東京都)

——白鳥は精神の湖に浮かぶ美の象徴でしょうか。

茶色い衣を剥いで

色紙の極彩色を纏わせた後

あの蓑虫を

どうしたのだったろう

作者 春町 美月 (大阪府)

——消費したあとに捨てられるもの、忘れ去られるものへの思い。

こんな話で分かり合えちゃ

うれしくて嫌になるよ

作者 ヒロミヤカザル（京都府）

——現代人の意識の曲折。最近のお笑いも。

びしょ濡れの短歌の僕が先に行く

作者 青木雅（埼玉県）

——叙情や伝統に濡れそぼって、しかしなお先へ行かねば。

思いやりはいつも非合理的

作者 三千男進（愛知県）

——自己愛的で突発的で感情的、しかしそれではなくては救われないものがあるのかも。

しみじみと

時の早さが身に染みる

サザエを越えて

ほぼフネなんて

作者 儀間ゆみ（沖縄県）

——かつての日本の標準家族サザエさん一家。フネさんは50代だろうか。うんと若くなった現代人がなお懐かしむのは何故でしょう。現に超ロングランの漫画。

重力と机が桃に尻与え

作者 長谷川柊香（宮城県）

——「花の占めたる位置の確かさ」と詠った歌人がありましたが、永久普遍と思われた重力が相対的になった現代を感じる作品。

仮死状態のまま増殖する

インクの染みは

いつか

平凡な幸せの形となる

作者 宇井 麻千（大阪府）

——感じることを止めることによって手に入れるものが「平凡な幸せ」とは？